

3年ぶりのJ A農業機械大展示会にぎわう

6月15日(水)から17日(金)の3日間、第33回秋田県J A農業機械大展示会が秋田県立スケート場で開かれ、3年ぶりの開催に多くの人々が訪れました。最新モデルのトラクターや田植え機、コンバインなどをはじめ、各メーカーの多彩な農業機械が展示され、生産者はJ Aやメーカーの担当者とは話し合いました。

J A全農の共同購入トラクターやスマート農業の紹介コーナー、生産資材や農業資金の相談ブースなども並び、自動運転する農業機械の実演も来場者の注目を集めました。当J Aでは除草剤「ラウンドアップマックスロード」「バスタ」を特価で販売し、除草剤の効果や効率的な散布方法の説明に耳を傾ける生産者の姿が見られました。

- 1 2 …… 最新の農機を見る人でにぎわう会場
- 3 …… 肥料・農薬の相談コーナー
- 4 …… 除草剤を特価販売しました



1



4



3



2

NEWS & TOPICS

枝豆の品質向上へ現地研修

6月20日(月)、枝豆の現地研修会が秋田市雄和の(農)平沢ファームで行われ、生産者ら約20名が参加しました。収量や品質の向上を目指し、極早生品種「神風香」の圃場を観察して雑草処理や施肥、防除の適期などを話し合いました。試験栽培の様子も確認し、試験品種と「神風香」とを比較しながら草丈や開花期などについて意見を交わしました。

秋田地区営農センターの営農指導員は「これまでの気象経過によって生育が停滞気味のため、追肥や葉面散布などによって生育を促進させてほしい。良質な枝豆を栽培し、高単価につなげよう」と生産者に呼び掛けました。

日本農業新聞秋田県優績J A通信員を受賞

令和3年度日本農業新聞秋田県優績J A通信員表彰で、昨年度中に記事を出稿した県内J Aの通信員の上に贈られる優秀通信員に、企画管理課の進藤更紗特別通信員が選ばれました。同賞の受賞は4年連続となりました。

秋田県日本農業新聞J A協議会総会で表彰式が行われる予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の状況をふまえて書面議決で総会が行われたことから、J A秋田なまはげ会館で佐藤広美組合長から盾と記念品が贈られました。

これからも管内の行事や産地の取り組みなどを幅広く世間に伝えるため、ニュースを発信していきますので、日本農業新聞をぜひご購読ください。



枝豆の今後の栽培管理を学ぶ生産者ら



今年度も管内のニュースを積極的に発信します

